

ミヤコシ

デジタル印刷機のオープンハウス盛況

— B2判液体トナー枚葉機など —

(株) ミヤコシは 11 月 27 日から 29 日までの 3 日間、千葉県八千代市の POD 事業本部クリーンルームでオープンハウス 2012 を開催し、drupa2012 で発表した高速デジタル印刷システム 2 機種を加えた 6 機種の新製品と 4 機種の主力製品を公開、実演した。オープンハウスには 3 日間で約 2 千人が来場。発表した新製品は来年春の販売を目指す。

オープンハウス会場では、今年 5 月の drupa2012 で発表したリョービとの共同開発の液体トナー方式枚葉デジタルプレス「Miyakoshi Digital Press8000」、フルカラー高速インクジェットプリンター「MJP20MX-7000」が注目を集めた。商業印刷市場や出版印刷市場等に向けた機種で、ショートラン印刷に最適のスペックとなっている。

Miyakoshi Digital Press8000 は毎時 8000 枚の生産性を実現。バージョンアップにより毎時 1 万枚まで対応予定で、液体トナー方式のデジタル印刷では最速となる。粉体トナーの粒径 5~10 μ m に対し、粒径 1~2 μ m の超微細液体トナーと 1200 \times 1200dpi の高解像度でオフセット印刷に近い画質を再現。用紙は最大 788 \times 600mm (B2 サイズ相当) で、一般的な商業印刷に加え、パッケージ分野での活用を見込んでいる。

MJP20MX-7000 は 8 色 \times 8 色のフルカラー高速インクジェットプリンター。最高印字速度は毎分 320m とフルカラーインクジェット機で世界最速クラスとなる。解像度が 1200dpi と高く、裏抜けやにじみの少ない高品質印字が可能。水性染料インクと水性顔料インクの 2 種類を用意し、CMYK+特色 4 色、多階調の印刷モードを装備した。アンカー剤不要で、インクジェット用紙以外の基材にも印字が可能となっている。コート紙への印刷も対応できる。このほかフルカラーインクジェットプリンターの新製品としては 1 タワーで両面印刷を可能にしたコンパクトモデルの「MJP20EX-6000」を出展した。

ラベル印刷分野では小・中ロット向けフルカラーインクジェットプリンターの「MJP13LX-2000」を発表した。水性顔料インクを採用し、1200dpi の解像度で毎分 50m の業界トップクラスの生産性を実現。インクコストは UV インクジェット機に比べて約 3 分の 1。内蔵型後加工機とともに実演した。併せてラベル用レーザー加工機も出展、完全無版でのラベル加工を披露し、MJP13LX-2000 との連結を予定している。

また、ラベル・フィルム印刷向けのスリーブ式 LED-UV オフセット印刷機はスリーブ構造の版胴とブランケット胴によりジョブ替え、サイズ替え作業を大幅に簡素化。薄フィルムを含めた多様な基材への対応が可能になる。

(2012 年 12 月 15 日 プリテックステージニュース 掲載)